

もつと知りたい 武者小路実篤

実篤の戯曲 2 花咲爺

武者小路実篤は、ある小学校の先生から「子どものための作品を書いて」と頼まれて、「かちかち山」と「花咲爺」を基に戯曲を書きました。

昔話をただ戯曲の形にただけではありません。そこには、実篤ならではの工夫があります。

「花咲爺」で見てみましょう。

正直爺さんには宝物が出て、欲張り爺さんにはがらくたばかり出る、昔話の「花咲爺さん」。実篤が書いた「花咲爺」には、もう一人「中兵衛さん」という登場人物が出てきます。

中。 私は慾兵衛さんの餅が宝物にかはつてくれないければいゝと思ひますよ。

正。 そんな気はなるべく持たないやうにする方がよろしいよ。さう云ふ気がある間は、大事なことが目につかなくなりますよ。他人を呪ふやうなことはなるべくしない方がよろしいよ。

中。 しかしあんまり慾のふかいものには罰があたらないのは気持のわるいものですからね。今にひどい目にあふといゝと思ひますよ。

あなたは
正兵衛さんと中兵衛さん。
どっちの気持ちがよく分る？



ほかの人にも
きいてみよう！



「花咲爺」挿絵 岸田劉生 1917年
お餅が宝物に変わった！



ポイント

昔話では、善良な正直爺さんが灰をまくと花が咲いてごほうびをもらい、ひどいことばかりした欲張り爺さんは花を咲かせる事が出来ず罰を受けます。

さて、実篤の「花咲爺」ではどうでしょう。

大名。すぐ慾兵衛をつれて行つて首をはねろ。

—— (中略) ——

正。一寸お待ち下さい。

大名。なんだ。

正。どうか、慾兵衛さんの生命はお助け下さい。

—— (中略) ——

大名。お前は慾兵衛の殺されるのを気持ちよくは思はないか。

正。思ひません。慾兵衛さんは腹の底からわるい方では御ざいませぬ。あの姿を見たら誰でも同情しない方はないはずだと存じます。どうかおころしになるだけはお許し下さい。

大名。貴様にやつた宝物をのこらず返せば慾兵衛の生命はゆるしてやる。

正。お返しします。お返しします。

大名。花咲爺。わしはお前が花を咲かせたよりも宝物をかへしてまでも慾兵衛の生命を助けやうとした心を嬉しく思ふぞ。誰か、もつと宝物を持って来てやれ。

正。美しい心で生かしてやつてくれ。

正。はつ。(平伏する。涙ぐむ)

—— (中略) ——

大名。花咲爺。わしはお前が花を咲かせたよりも宝物をかへしてまでも慾兵衛の生命を助けやうとした心を嬉しく思ふぞ。誰か、もつと宝物を持って来てやれ。

—— (中略) ——

正。美しい心で生かしてやつてくれ。

正。はつ。(平伏する。涙ぐむ)

—— (中略) ——

正。美しい心で生かしてやつてくれ。

正。はつ。(平伏する。涙ぐむ)



昔話の「花咲爺さん」と読み比べてみよう！
実篤はどうして「こう」いうお話にしたと思おう？

他の人の意見も書いてみよう！